



# 令和5年度 果樹情報 第15号

(令和5年10月18日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (10月前半、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が18.8℃で平年より1.0℃高く、2半旬が15.9℃で平年より0.3℃低く、3半旬が14.2℃で1.7℃低く経過しました。

この期間の降水量は46.0mmで平年比74%と平年並、日照時間は86.2時間で平年比113%と平年より多くなりました。

## 2 土壌の水分状況

10月15日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで1.8、深さ40cmで2.0、深さ60cmで2.0となっており、適湿状態です(図1)。

(深さ40cmは6月1日から6月15日、7月24日から31日までデータ欠損)

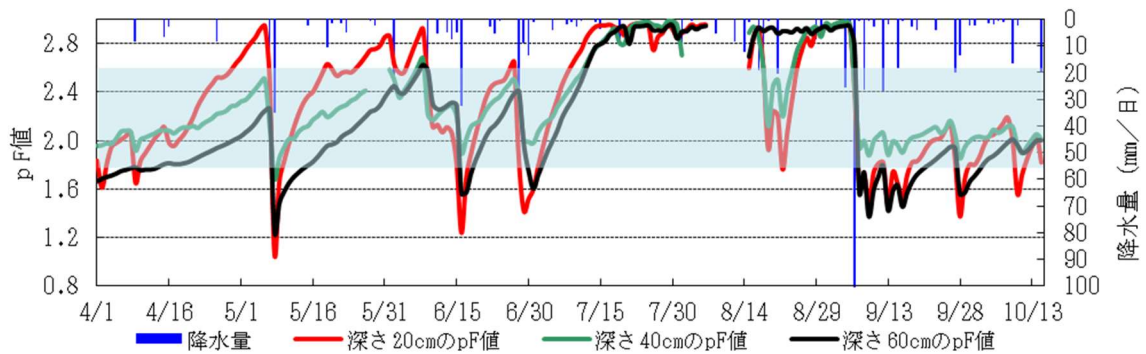


図1 土壌pF値の推移(果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

## 3 発育状況 (10月16日現在、果樹研究所)

### (1) りんご

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が88.6mm(平年比108%)、横径が94.0mm(平年比105%)で平年よりやや大きい状況です。満開後日数による比較では平年より大きくなっています。

#### イ 成熟状況

「ふじ」の満開後181日(10月12日)における成熟調査の結果は、果実硬度が14.1ポンドと平年並、デンプン指数が3.9と平年より低くなっています(図2、3)。果皮中クロロフィル含量が平年より高く、果皮中アントシアニン含量が平年よりかなり低い状況です(図4、5)。

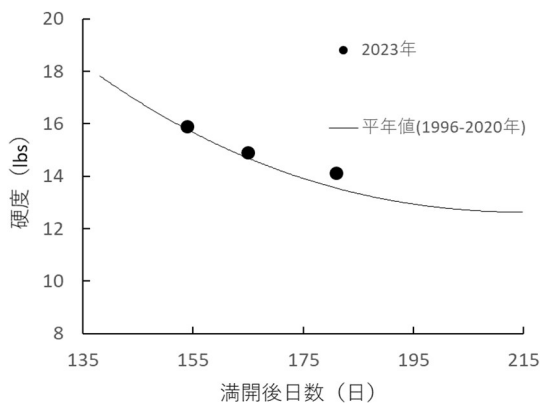


図2 「ふじ」の果実硬度の推移

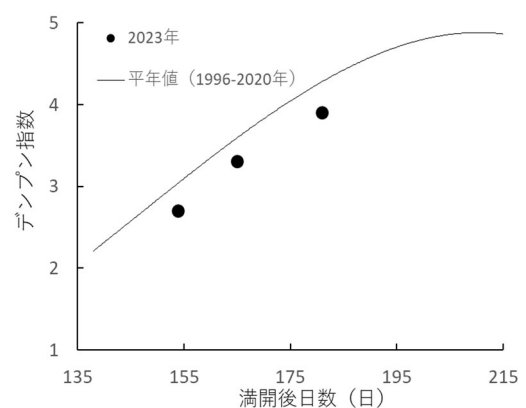


図3 「ふじ」のデンプン指数の推移

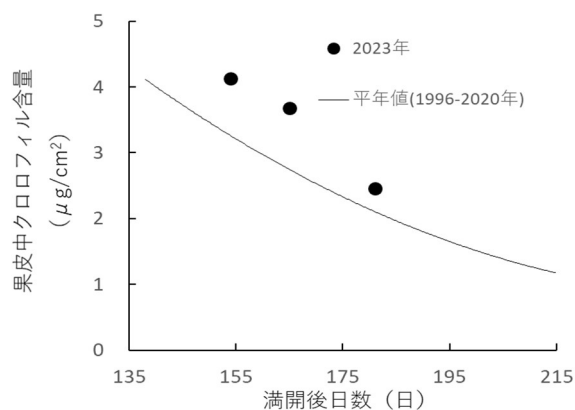


図4 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

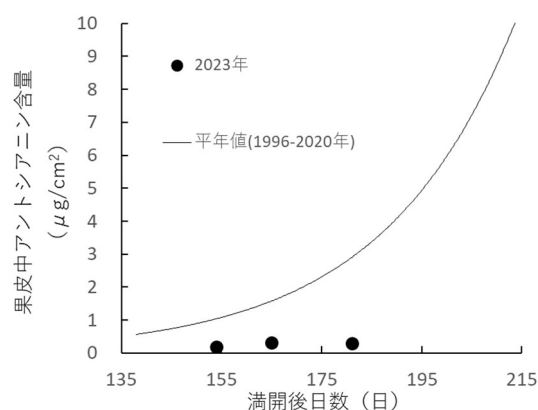


図5 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

#### ウ 「ふじ」の裂果発生状況

満開後 181 日（10 月 12 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は 6.7%、内部裂果発生率は 13.3%と過去 3 年間と比較して少ない傾向がみられています（表 1）。

表 1 りんご「ふじ」の裂果発生状況（満開後 180 日頃）

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2023	2022	2021	2020	2023	2022	2021	2020
ふじ/マルバ台	20	6.7	20.0	26.7	40.0	13.3	36.7	50.0	63.3

## 4 栽培上の留意点

早霜のリスクが高まる時期となります。  
 最新の情報は、福島地方気象台ホームページ「霜と気温の見通し」を御確認ください  
 URL <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/shimo/shimo.html>

### (1) りんご

#### ア 「ふじ」の収穫前管理

樹冠内部が混み合うような場合には、反射シートに光が差す程度に徒長枝の間引きを行いましょ

う。  
 摘葉、玉回しは遅れないように計画的に実施しましょう。その際に、日焼け果等の傷害果は、選果基準に従って適切に処理しましょう。

#### イ 「王林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るため、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から 2～3 回に分けて収穫しましょう。収穫適期は、果皮色が全体に黄色味を帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の時です。果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低くなるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

#### ウ 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア モモせん孔細菌病

秋季の降雨により、新梢葉での発病が増加している状況が見られます。収穫が終了した園地で降雨前の秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

3回目の防除を実施していない場合には、薬剤は4-12式ボルドー液、又はICボルドー412を30倍で使用するか、クレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、又はクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用しましょう。

イ ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出(図6)が多くなる頃(果樹研究所では10月上旬～11月上旬)となります(図7)

(参考：令和4年度普及に移しうる成果 (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>))。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回散布(キャプタンの総使用回数に注意)し、最終散布は落葉率80%頃を目安に実施します。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

なお、10月13日時点の果樹研究所「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は21.0%で、9月29日の12.1%から増加しています。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織(芽内)

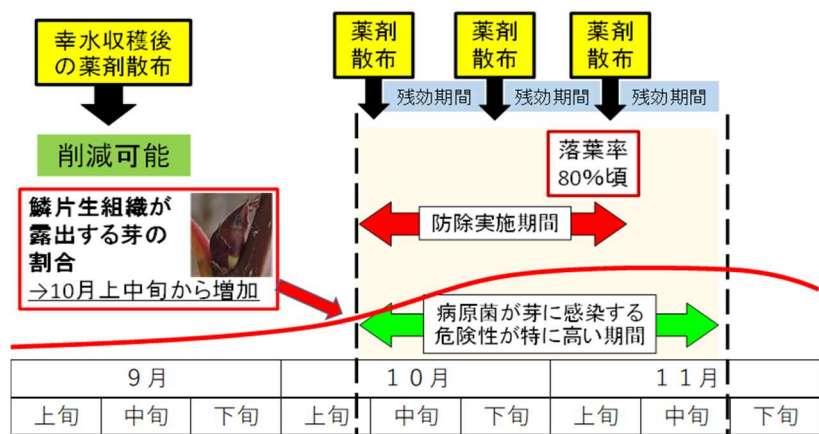


図7 なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

～ 中国産の輸入花粉を使用されているなし及びりんご生産者の皆様へ ～

国は、中国において火傷病(かしょうびょう)が発生したことを受け、令和5年8月30日に中国からの火傷病菌の宿主となる植物(花粉等)の日本への輸入を停止しました。これにより、中国産のなし及びりんご花粉の供給が停止されます。

- 火傷病に感染した花粉や疑いのある花粉の使用により、本病に感染するおそれがありますので、保有している中国産花粉は使用を控え、一時的に保管してください。
- 令和6年の果実生産に向け、自家採取等による花粉の確保に努めてください。
- 現在、中国産花粉を使用した園地を対象に、本病の発生調査を行っています。特に、早期発見による早期防除が重要となりますので、資料を参考に、症状有無の緊急調査をお願いします。

**福島県からのお知らせ「なし・りんごにおける火傷病の緊急確認マニュアル」**

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/596138.pdf>

なお、詳細は園芸課・病害虫防除所のホームページを参照ください。

URL: (園芸課) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035c/r5chinakashoubyou.html>

(病害虫防除所) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/kasho-byo.html>

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

**農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。**

発行:福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL:<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>